

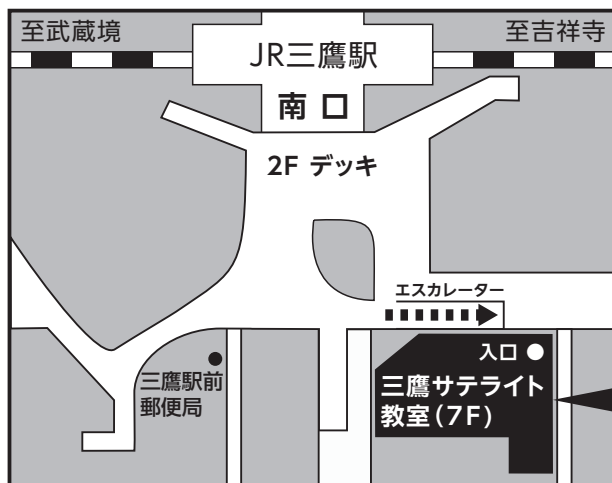
『源氏物語』

宇治十帖 早蕨（さわらび）・宿木（やどりぎ）巻を読む

受講料 (振込額)	10,000円				
必携テキスト	新潮日本古典集成 『源氏物語 七』 [新潮社 / 石田穰二・清水好子 / 1982年 / 3,960円]				
講座概要	曜日	月曜日		日程	
	時間	15:00~16:30			
	回数	全4回	定員		40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講師	東京大学名誉教授・紫式部学会会長・博士（文学） 藤原 克己（ふじわら かつみ）				
	東京大学大学院博士課程中退。岡山大学教養部講師、神戸大学文学部助教授、東京大学文学部教授、武蔵野大学文学部特任教授を歴任。博士（文学）。著書に『菅原道真と平安朝漢文学』（東京大学出版会）、『菅原道真 詩人の運命』（ウェッジ選書）、共著に『改訂新版 日本の古典—古代篇』（放送大学教育振興会）、『源氏物語 におう・よそおう・いのる』（ウェッジ選書）、『2008年パリ・シンポジウム 源氏物語の透明さと不透明さ』（青簡舎）、論文に「源氏物語とクレージュの奥方」（柴田元幸編『文字の都市』東京大学出版会）などがある。				
内容	早蕨巻：一昨年の八月に父宮が、そして昨年の十一月に大君が亡くなり、一人とり残された中の君は、再びめぐって来た春の光にも悲しみを新たにすばかりでした。二月に姉の喪が明けると、中の君は京の匂宮邸に移転します。				
	宿木巻：匂宮は次期東宮候補という立場上、右大臣家の姫君との縁談を承引せざるを得ず、中の君は深刻な苦悩と不安を味わうこととなります。一方、薫は大君に面影の通う中の君に次第に思いを募らせてゆくのですが、中の君も誠実な薫の人柄に心打たれ、この人と一緒になっていたら、と思わずにはいられないのでした。しかし、中の君はすでに匂宮の子を身ごもっていたのでした。				
	①7月 1日：早蕨巻を読む ②7月22日：宿木巻① 匂宮と右大臣家との縁談—中の君の不安 ③8月26日：宿木巻② 薫と結婚していたらよかったと思う中の君 ④9月 9日：宿木巻③ 浮舟の登場				



武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。